



有機農法にこだわった農業経営を行う

株式会社陽光ファーム 21 奈良県宇陀市榛原区

奈良県宇陀市榛原区にある株式会社陽光ファーム 21 は、空気、水、土壌など自然環境に恵まれた土地を生かして、体に優しい野菜、卵、米などを栽培・生産している。

同社社長は農業の素人でありながら、いち早く有機農法を手がけ、また、採れたて野菜の全国宅配やカモ農法による米作りなどを実践。さらに、放し飼いのカモと有機野菜を食材とした農園レストランも経営している。

会社概要



会社名：株式会社陽光ファーム 21
所在地：奈良県宇陀市榛原区栗谷 108
電話：0745-82-2750
FAX：0745-82-2757
設立：平成 2 年 6 月
代表者：代表取締役 桑原 誠人
資本金：3,300 万円
従業員：15 名
事業：有機 JAS 農園、平飼い養鶏、精米販売、宅配センター、かまなべ工房等の経営
URL：<http://www.yoko-farm21.co.jp/>



同社外観

素人が農業に従事

株式会社陽光ファーム 21 を経営する桑原誠人社長は、有機栽培が今ほど一般的でなかった昭和 53 年春に事業を立ち上げ、農薬・化学肥料を使

わない農業の第一歩を踏み出した。家は非農家で、ずぶの素人だったが、元々から農業に興味があり、父の商売は自分には合わないと感じていたこともあって、新しい世界への進出を決心、まず農地の確保からはじめた。

しかし最初からすんなりとはいかなかった。素人が農地を借りることは容易いことではなく、紆余曲折の後、やっとの思いで友人の父から奈良市内で 300 坪の農地を借りることができた。そして、あらゆる天然肥料の中でみみずのふんが最高と書物に書かれてあったこともあり、みみずの養殖を始めた。友人の父にこれを使ってほうれん草の栽培を依頼したところ、後日届いた大量のほうれん草を目の前にして愕然、「販売先がない」ことに気が付いた。仕方なく、住宅地を訪問して戸別に手売りすることになり、しかも原価割れで売るといふ苦い経験をするようになった。

野菜販売から野菜生産へ

その後、いったん農業は中止してタクシードライバーとして働き、3 年間で資金を蓄えた。この資金を元手に、さらに過去の経験を肥やしにして、昭和 57 年に株式会社陽光ファーム 21 の前身となる有機野菜の流通会社、有限会社陽光産業を大和郡山市で設立した。有機野菜の生産はプロである農家に任せ、自身は野菜を販売する側に回った。当時、土のついたままの野菜がまだ珍しかった時代、有機野菜の売れ行きは順調、目標としていた販売額もいつのまにかクリアしていた。

しばらくは卸売りに徹していたが、「自分で作りたい、消費者の気持ちを反映させた野菜作りに徹したい」との思いが社長の内にどんどん大きくなり、野菜を自分で作る方向へ事業を展開した。同時に、現在の土地を手に入れる機会にも恵まれた。

平成2年6月に、有機野菜を専門とする農園、株式会社陽光ファーム21を設立。現在、同社事業の柱のひとつになっている、畑で採れたての有機野菜を毎月定期的に日本全国各地へ発送する定期便のシステムを作った。定期便は野菜の代金に加えて、入会金や年会費が必要という条件にもかかわらず消費者に受け入れられた。宅配便の発達によって新鮮な状態で全国どこへでも送ることができることも追い風となり、会員数は増加していった。広告宣伝費は一切使わず、クチコミで広まり、会員数はピーク時に1,200件にも達した。現在も関東地方の消費者を中心に根強い人気があり、日に200件の発送をこなす時もあるという。



有機農法で栽培された野菜

第二、第三の柱「卵」と「米」

野菜の栽培を始めてからおよそ10年後、野菜と同様日本人の食生活に欠かせない「卵」の生産を開始した。ニワトリも人と同様「正しい食生活」と「適度な運動」、「ストレスのない環境」が健康維持の基本と考え、薬剤による管理は一切していない。飼料は非遺伝子組み換え作物にこだわり、農園の野菜くずなど飼育中のニワトリが好むもの20数種類を配合、飲み水は大和高原山麓から湧き出す地下水を使っている。また、1区画36㎡の鶏舎に120羽を平飼いするという贅沢な飼育方法によって、大自然の中、1,500羽のニワトリが適度の運動ができ、ストレスをためない環境を作っている。そのため、卵はくさみやクセがなく、あっさりした「やさしい味」にできあがる。

一方、卵の生産から数年後、周辺の米作農家の有志とともにカモ放田の米作りも開始した。「澄んだ空気」、「きれいな水」、「肥沃な土壌」というおいしい米の3大条件が当地にはそろっている。

さらに稚ガモを田んぼに放し、カモが除草や虫取りをすることによって、農薬や化学肥料を使わない米作りを行っている。

おわりに



平飼いで飼育されるニワトリ（左）と田んぼに放されたカモ

昨年2月には同社の直営農場部を若いスタッフで構成される農業生産法人グリーンワーム21にバトンタッチした。

「有機農法などの新しい農業形態の良さをビジネスモデルとして若い世代に伝えていく事がこれからの私の仕事。自分の力で農業に参入し、政府の戸別所得補償などに頼るのではなく、自分の力で稼ぐという強い気概のある若者、やる気のある人の養成に力を注いでいきたい。また、福祉や障害者雇用などにも農業として、当社としてできることは可能な限り貢献していきたい」と桑原社長はこれからの意気込みを語っている。

農薬と化学肥料全廃にこだわり、「食の安心」を追求する同社への期待は、今後さらに大きくなっていくものと思われる。（丸尾尚史、島田清彦）

農園レストラン「のどか里」

自然飼育で育てられたきわめて上質な肉質で、くさみがなく口当たりの良いカモとその日収穫した有機野菜を使った「カモなべ」と「カモステーキ」を提供している。

